

## 正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2023年5月19日）

## ■第1版 第1刷（2022年11月10日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第7章					
218	Fig. 21		粘膜層(M)と粘膜筋板(MM)の位置関係を修正	※1参照	23/05/12
297	本文上から1行目	カリウムイオン <b>糖合酸分泌薬</b> (P-CAB)	カリウムイオン <b>糖合型アシッドプロツカニ</b> (P-CAB)		23/05/12
322	診断基準(進行期)の表		表1と表2に差し替え	※2参照	23/05/12
344	Table1, b.(2)の行	m <del>g</del> derately	m <del>o</del> derately		23/05/19
あとがき					
445	謝辞 6~7行目	千野晶子先生, 渡海義隆先生,	千野晶子先生, <b>土田知宏先生</b> , 渡海義隆先生	土田知宏先生を追加	23/05/12

## 図表

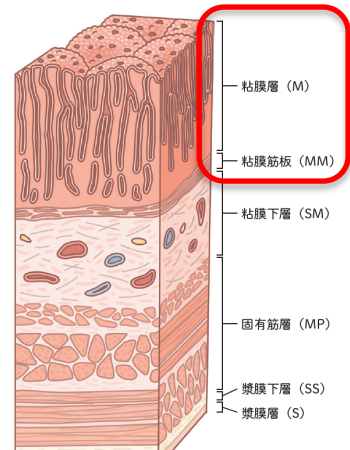
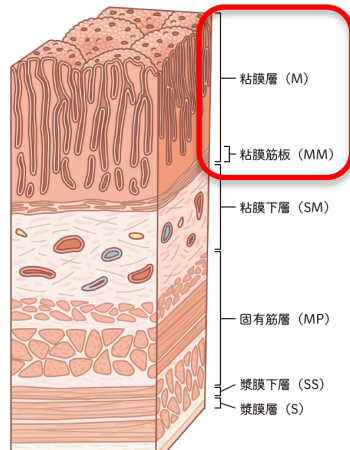
※1	修正前	修正後
	 <p>Fig. 21 胃壁の構造</p>	 <p>Fig. 21 胃壁の構造</p>

Table 1 自己免疫性胃炎の診断基準

(確診例)

- A) 内視鏡所見(※細目), 組織所見(※細目)のいずれか, もしくは両者が自己免疫性胃炎としての要件を満たす。  
 B) 胃自己抗体陽性 [抗壁細胞抗体(※細目)あるいは抗内因子抗体のいずれか, もしくは両者が陽性]  
 A) と B) の両者を満たすもの, ただし早期は組織所見と胃自己抗体陽性を満たすこと。

(疑診例)

- A) のみを満たすもの, ただし早期は組織所見のみを満たすこと。

(※細目)

内視鏡所見&lt;進行期&gt;

(主所見)

胃体部～胃底部優位の高度萎縮を認める(胃体部で均一な血管透見像を呈する)。

(副所見)

胃体部～胃底部では固着粘液, 残存胃底腺粘膜, 過形成性ポリープが見られることがある。

前庭部は必ずしも正色調とは限らない。斑状発赤, 稜線状発赤, 輪状模様を参考になる場合もある。

上記項目のうち, 主所見を必須とする。

組織所見

早期(early stage), 進行最盛期(advanced florid stage) および進行終末期(advanced end stage)の3期に分けて診断する(Table 2 参照)。

抗壁細胞抗体

10倍以上を陽性とするが, 偽陽性を考慮し今後変更される可能性がある。

Table 2 自己免疫性胃炎の組織学的時相分類と組織学的特徴

1 早期early stage: 最盛期AIGに併存することがある。

- (1) 胃底腺粘膜の胃小窩長と胃腺管長の比率はほぼ正常であるが, 正常胃底腺構造(壁細胞・頸粘液細胞層と主細胞層の二層構造)が不鮮明化し, 胃腺部全体が壁細胞・頸粘液細胞層にみえる。

・胃小窩(胃腺窩)長と胃腺長の比率: 1: 2~4

・壁細胞: 胃腺部に多数残存するが, 変性(膨化=偽肥大), 管腔内への突出や脱落で, 軽度減少。プロトンポンプの染色性低下や細胞質内での分布異常を伴う。

・主細胞(ペプシノーゲンI陽性・MUC6陰性): 不鮮明化と頸粘液細胞へ移行

・頸粘液細胞(ペプシノーゲンI陽性・MUC6陽性): 胃腺部全層に分布するが, 腺底部で増加が顕著

・幽門腺細胞(ペプシノーゲンI陰性・MUC6陽性): (-) > (+), 少数

・腸上皮化生(胃体部や穹窿部ではCDX2陽性・CD10陽性の小腸型): (-)

- (2) ECL細胞(クロモグラニンA陽性)過形成: (-) ~ (+), 腺管内・外, 線状>小充実性, 小結節状

- (3) 胃底腺の間にリンパ球・形質細胞浸潤が軽度~中度。リンパ球(CD3+)は上皮内にもあり。

- (4) ガストリン細胞過形成: (+) ~ (-)

2 進行最盛期 advanced florid stage:

- (1) 胃底腺粘膜の胃腺部は多数~中等数の幽門腺や頸粘液腺(頸粘液細胞からなる腺管=偽幽門腺)で占められる。変性壁細胞が目立ち, 壁細胞・頸粘液細胞層の痕跡が残存する部もある。

・胃小窩(胃腺窩)長の延長と胃腺長の短縮がある。両者の比率: 1: < 1 (~2)

・壁細胞: (-) > (+), 残存する少数の壁細胞に変性やプロトンポンプの染色性が低下・陰性化が強い。

・頸粘液細胞: 胃腺部の下半部や腺底部に存在または消失

・幽門腺細胞: 胃腺部の表層部~全層に存在

・腸上皮化生(小腸型): (-) ~ (+), 軽度

- (2) ECL細胞過形成(腺管内・外, 線状>小充実性, 小結節状): (+)

- (3) ガストリン細胞過形成: (+)

3 進行終末期 advanced end stage: 最盛期AIGの一部を合併することが多い。

- (1) 胃腺部は中度~高度の腸上皮化生と少量の幽門腺>頸粘液腺で占められている。

または胃小窩延長が高度で, 胃腺部(幽門腺>頸粘液腺)が少量残存する。

- (2) ECL細胞過形成(腺管内・外, 線状>小充実性, 小結節状): (+)

- (3) ガストリン細胞過形成: (+)

引用: 鎌田智有 他. 自己免疫性胃炎の診断基準に関する附置研究会からの新提案. Gastroenterological Endoscopy. 65: 173-182. 2023